賢い答

むかし〳〵ある處に、一人の少年がありまして、どんな六ケしい問でも、譯もなく甘く答へるといふので、大變名高くなりまして、遂には其の評判が殿樣のお耳へはいりました。

そこで、或日のこと、殿樣は、この少年をご前に召して、

「ハー、お前じやな、どんな六ケしい問でも、答へて見せるといふのは？

少年　恭しく

『御意にございます

『フム、夫では、此方が今三の問をかけるから、夫を即座に甘く答へて見せれば、これから後お前を此方の子にして遣はすがどうじや

『これは、ありがたい仕合せにございます、して、其三の問と仰せられるは

『先づ第一番がかうじや、海には何滴の水が在ると思ふか

『ハッ、夫ではまことに恐れ入りまするが、私が海の水を勘定して仕舞ふまで、暫くの間地面の水が一滴も海へ流れこまない樣に、又空から一滴の雨もこぼれ落ない樣に、殿樣の方でなさつて下さいますれば、確に其お答を致しましよう。

『では、第二番の問がこうじや、空にはどれ程星があらうな

すると、少年は

『どうか大きな紙を一枚頂きたいもので』

と申し上げて、大變に大きな紙を貰つて、さて其紙面に針で以て數知れぬ程細かい孔をついて、誰

も見た許りて目が、チョロ〳〵する位、とても數へ切れない位にして、さて申し上ますには

少『まづ、空には、丁度此紙面についた孔位の數の星がありましよー、さあ、何方か來て、此孔を御勘定なさい

といつたが、誰も數へて見ようとする者がない、そこで、殿樣は

『では、第三番の問がこうじや、「永久とは何秒間のことか

少年『ハッ、夫はかようで、こゝから遠い〳〵所の或國に、金剛石の山がありまして、其高さが一里、幅一里、にして深さも一里あります、所が、千年目毎に一羽の鳥が飛んで來て、嘴で以て此山を啄いて居ります、そこで、此山が、其爲めにすつかり啄き崩されて跡なくなつた時が、即永久の第一秒時が過ぎた時なので……』

殿樣は、斜ならず感心して

『ウン、さて〳〵、お前は聞きしに勝る豪い奴じや、此方の問を三ながら答へたからには、約束通り、今からこの方の子にしてやらう

と仰つて、とう〳〵此少年は殿樣の子にして貰いましたとさ。めでたし〳〵

象のお話し（一）

上野の動物園には、大きな象が、片足を金の鎖でくゝられて、象小屋の中にじつと縛られて居ます。淺草の花屋敷では、象が、番人の號令に應じて、碁盤乘りや、喇叭吹きや、お辭儀などします、こんな所を見ますと、形こそ、あんなに無格好に大きいですが何如にも無邪氣で、可愛いゝ動物であ